

令和元年度 第1回 船橋市文化財審議会議事録

- [日 時] 令和元年5月23日(木曜日) 午前10時00分 開始
- [場 所] 船橋市役所 10階 中会議室
- [出席者] 委員：鎧 禮子 委員長、柴田 良貴 副委員長、岡崎 文喜 委員、吉武 早苗 委員、
金出 ミチル 委員、湯浅 治久 委員、青木 繁夫 委員、菅根 幸裕 委員
- 事務局：三澤 史子 生涯学習部長、大屋 武彦 文化課長、道上 文 文化課長補佐、
石坂 雅樹 埋蔵文化財調査事務所長、白井 太郎 埋蔵文化財保護係長、菅野
泰久 歴史文化財係長、小林 理恵 埋蔵文化財調査事務所調査班長、
植木 雅博 主任主事、玄蕃 充子 主事、松本 康太郎 主事、岡崎 光司 主事
- [欠席者] 阿部 芳郎 委員
- [委嘱状交付] 再任：湯浅 治久 委員、青木 繁夫 委員、菅根 幸裕 委員、阿部 芳郎 委員
- [人事異動報告] 大屋 武彦 文化課長
- [挨拶] 三澤 史子 生涯学習部長

【鎧委員長】

はじめに、報告(1)「平成30年度文化財保護・調査・普及事業報告について」、事務局から説明をお願いします。

【事務局(埋蔵文化財保護係長)】

それでは、皆さまにお配りさせていただきました、「平成30年度文化財保護・調査・普及事業報告について」という資料をご覧ください。

資料1 ページ目の1. 文化財保護・調査になります。まず、①の開発等に伴う埋蔵文化財に関する業務についてご説明させていただきます。資料7 ページをご覧ください。こちらは平成30年度の埋蔵文化財に関する統計資料になります。1. 照会件数の推移は、昭和52年からの長期の統計グラフになっておりまして、2. 文書照会件数がここ10年の統計となります。平成30年度の照会件数は全体で326件ございまして、前年度に比べますと若干は減少しておりますけれども、ここ最近の4年間ではほぼ横ばいで推移しております。

続きまして、資料8 ページに移ります。3. 窓口、電話による問合せ件数です。こちら、平成30年度は5551件と昨年度に比べますと若干は減少しておりますが、ほぼ横ばいで推移している状況でございます。4. 試掘件数ですが、昨年度は40件の試掘を行っております。

資料9 ページに移りますが、5. 土木工事の届出等件数は、平成30年度で266件となりまして、昨年度とほぼ同じ件数となっております。6. 発掘調査の件数ですけれども、土木工事によって遺跡に影響を及ぼすものについて発掘調査を行っております。平成30年度は40件ございまして、確認調査が31件、本調査が9件となります。こちら、ここ3年でほぼ横ばいの推移となっております。

【埋蔵文化財調査事務所調査班長】

②の開発等に伴う発掘調査（本調査）についてご報告いたします。昨年度、発掘調査については9件を行いました。資料1ページに発掘調査を行いました一覧表がございます。ご覧いただいておりますように、東中山台遺跡群（68）ほか8件の発掘調査を行いました。また、一覧表の下にございますが、他に確認調査、確認・本調査あわせて31件を行いました。

③の開発等に伴う発掘調査報告書の刊行についてです。こちらは、昨年度に8件の発掘調査報告書を刊行いたしました。資料は1ページから2ページにわたり、一覧表を掲載しております。

まず、最初に記載しました平成30年度船橋市内遺跡発掘調査報告書は、国庫補助事業となります。こちらに記載しております報告書は、前年度に発掘調査を行いました8件分の報告書ですが、このうち、委託で4件分の発掘調査報告書を、直営で4件分の発掘調査報告書を刊行いたしました。

④の取掛西貝塚保存事業についてです。昨年度も平成29年度に引き続きまして、保存目的の範囲及び内容の確認調査を行いました。過去5回の調査地の西側、約15,500㎡のうち、約2,014㎡の確認調査を埋蔵文化財調査事務所で実施いたしました。

概要といたしましては、縄文時代早期竪穴住居跡10軒、縄文時代前期竪穴住居跡3軒、弥生時代中期竪穴住居跡6軒、土坑2基など多数の遺構を検出しております。

【歴史文化財係長】

⑤の平成30年度に市文化財である取掛西貝塚に追加指定いたしました件についてご報告させていただきます。

取掛西貝塚の追加指定については、以前、文化財審議会にてご審議いただきましたが、教育委員会会議を経て、平成30年6月25日に指定されました。また、平成30年度第3回文化財審議会にてご審議いただきました、取掛西貝塚の追加指定つきましても、令和元年5月7日に指定となりましたのでご報告させていただきます。

⑥の指定・未指定文化財調査になります。こちらは、無形民俗文化財を中心に年間を通して、文化課職員が現地へ行き、撮影や聞き取りなどを行いました。

平成31年2月に、船橋市三山の二宮神社社殿の劣化状況等を本市の文化財審議会委員であります金出ミチル委員に調査を実施していただきました。

また、船橋市前原東の御嶽神社に木造蔵王権現三尊立像という仏像があるのですが、神社の関係者から保存状況を調べてほしいという要望がございましたので、平成31年3月に千葉県文化財保護審議委員会の佐野千絵委員と本市の文化財審議会委員であります青木繁夫委員に調査を実施していただきました。

その他は、一覧表に記載しております通り、市内の神楽など民俗行事を中心に記録を作成いたしました。

⑦の指定文化財補助事業についてです。こちらは「船橋市文化財保護事業補助金交付要綱」に基づきまして、25件の指定・登録文化財の所有者等に管理伝承費の補助を行いました。

また、3件の修理等に係る費用の補助を行いました。そのうちの1件は、先ほどご報告させていただきました、二宮神社社殿の屋根が破損してしまいましたので、その屋根の補修を行いました。

続いて、平成29年度から実施しております、⑧の神楽伝承者交流会を平成30年度も実施いたしました。市内に5つある神楽の継承団体の方々を対象に講演及び意見交換会を開催し、平成30年度は、國學

院大學の平藤喜久子教授に「神楽に関わる神話について」というテーマでご講演していただきました。交流会には、3団体17名の方々に参加していただきました。

⑨の文化財防火デーについてです。こちらは全国的に行われております1月26日の文化財防火デーに合わせて、消防署・文化財所有者・近隣住民と協力し、4ヵ所で消防訓練に参加・協力いたしました。

それでは、2. 普及事業についてご報告させていただきます。資料は3ページからになります。

平成30年度は、9ヵ所で文化財・遺跡説明板の設置をいたしました。資料4ページの一覧表をご覧くださいと、指定文化財については、2基の文化財説明板の建替えを実施しました。その他、7基は遺跡の調査を行った近く、もしくはその場所に説明板を設置させていただいております。

【埋蔵文化財保護係長】

資料4ページ下段の②の刊行物についてご説明させていただきます。こちらの刊行物は、一覧表にも2つ記載しておりますけれども、どちらも「地域の特色ある埋蔵文化財活用事業」という国庫補助事業を受けまして、刊行しております。

1つ目の遺跡マップは、平成27年度から継続して刊行しているものになりまして、平成30年度も1万部を作成いたしました。市内の小学校6年生の全員に配布を行い、博物館・公民館等で市民の方々に配布しております。また、平成30年度に作成しました遺跡マップにつきましては、配布を終了し、現在、令和元年度分の遺跡マップの作成・配布への準備を行っている最中です。

2つ目が、「取掛西貝塚ってどんな遺跡？」というリーフレットになります。本日、文化財審議会委員の皆さまにもお配りさせていただいております。こちらは、取掛西貝塚という遺跡を全く聞いたことがないという方でも知っていただけるように簡易で分かりやすいものを心がけまして、作成いたしました。こちらも市内の公共施設で無料配布しております。

【埋蔵文化財調査事務所調査班長】

資料5ページの③の遺跡見学会に移ります。平成30年度は、実際に発掘調査を行っている現場を見ていただく機会を8回ほど設けさせていただきました。いずれも取掛西貝塚(7)の発掘調査の現場になるのですが、市民の方々や教員向け、芝山西小学校6年生や「親子de発掘体験」といった子ども向けの遺跡見学会も実施いたしました。参加者の総数は503人でした。

【埋蔵文化財保護係長】

資料5ページの④の企画展についてご説明いたします。飛ノ台史跡公園博物館・文化課・埋蔵文化財調査事務所で共催いたしまして、平成31年2月1日から平成31年3月3日までの27日間になりますけれども、飛ノ台史跡公園博物館を会場としまして、企画展「ここまでわかった！～1万年前の取掛西貝塚～」を実施いたしました。企画展期間中の総参加者数は1,640人となります。このうち、2月9日から2月11日を無料観覧日といたしまして、3日間のみで253人来場していただきました。併せまして、この3日間で午前と午後、各1回ずつ職員によります展示解説を行いまして、76人に参加していただきました。

続きまして、⑤-1の埋蔵文化財に関する講師派遣・講座についてご説明いたします。平成30年度は17ヵ所、参加者総数1,102人の講師派遣・講座を行いました。ほとんどが取掛西貝塚に関するものにな

ります。

昨年度、特に小学校や中学校の教員向けの研修会に力を入れまして、小学校教員の社会科副読本の研修会ですとか、小学校初任者研修会で取掛西貝塚を知っていただくために講座を開催いたしました。

また、平成 31 年 3 月 17 日には、船橋市勤労市民センターを会場としまして、取掛西貝塚の記念講演会を実施いたしまして、当日は 240 人の方々に来場していただきました。

【歴史文化財係長】

資料 6 ページの⑤-2 の歴史文化財に関する講師派遣・講座についてご説明いたします。平成 30 年度は 6 カ所、参加者総数 658 名の講師派遣・講座を行いました。基本的には、まちづくり出前講座という市の事業や施策などについて、市民の皆さまへご説明する事業でございます。

なかには、デイサービス内にお伺いさせていただき、「船橋市の文化財」についてご説明させていただいたものもございます。また、平成 29 年度に市の文化財に指定されました「下野牧二和野馬土手」について、近隣の小学校である二和小学校の 3 年生へ出前授業を行いました。出前授業では、現在まで残っている野馬土手の貴重性や歴史的な部分について説明させていただきました。

【埋蔵文化財調査事務所調査班長】

資料 6 ページの⑥の研修生・職場体験受け入れについてです。平成 30 年度は 11 月に 2 日間、七林中学校と御滝中学校から職場体験を受け入れました。2 校の生徒の受け入れ日が 1 日重なっていたため、その日は遺跡を見学してもらい、発掘調査も体験してもらいました。もう 1 日は、埋蔵文化財調査事務所内で土器の水洗といった作業を体験してもらいました。

【歴史文化財係長】

最後に、⑦のその他になります。千葉県内の指定・未指定文化財である郷土芸能を披露する「房総の郷土芸能」が、平成 31 年 1 月 26 日に佐倉市の佐倉市民音楽ホールで開催されました。平成 30 年度の「房総の郷土芸能」は、6 市 7 団体が出演し、船橋市からは湊町ばか面踊り保存会の方々による「湊町のばか面踊り」を披露していただきました。参加者は、949 人で県内各地からかなり多くの人々に来ていただけたのではないかと思います。

【文化課長補佐】

取掛西貝塚の概報について、付け加えさせていただきます。お手元に配布いたしました資料の 1 つで、取掛西貝塚の概報がございます。平成 11 年から平成 20 年までに実施いたしました取掛西貝塚(1)～(5)の本調査、それから今回、国史跡指定を目指して、範囲及び内容の確認調査を行っております取掛西貝塚(6)・(7)、平成 30 年度までの調査の成果をまとめたものでございます。

こちらをご覧くださいますと、調査の概要が分かるということが 1 つと、それから、概報の 11 ページをご覧くださいたいのですが、動物考古学の分野からも貝や獣の骨などの出土について、動物考古学がご専門の樋泉岳二氏に原稿をいただいております。

それから、概報の 12・13 ページには、植物考古学がご専門の佐々木由香氏に取掛西貝塚から出土した種子、これは土器に型が付いている、圧痕と言いますけれども、これについて調べていただきまして、

植物考古学の分野から原稿をいただいております。

特徴としましては、現在のダイズやアズキの祖先種ということになりますが、約 1 万年前のダイズやアズキなどが発見されている、という大事な所見が掲載されています。

こちらの概報は、令和元年 5 月 19 日に日本考古学協会という学会がございまして、そちらで 300 部配布いたしました。以上でございます。

【鑑委員長】

ありがとうございました。委員の先生方、ただ今の報告に対して、ご質問などはございますか。

【金出委員】

質問ではなく追加したいと思います。2. 普及事業の②の刊行物について、昭和 50 年代に作成された船橋市内の民家の調査報告書が、西図書館のデジタルミュージアムで公開されていることをお知らせいただきました。

5 年ほど前から、大神保、西船、飯山満町で船橋市の仕事の一環で民家調査に関わらせていただきました。民家の調査報告書自体が約 40 年前のものであるので、今と違う、当時、民俗関係の慣習とか聞き取りしたこととかもその報告書に掲載されています。状況の変化した現在となったから公開できるようなものもあると思うのですが、このような公開の試みは大変ありがたく思います。こういう公開がなされましたということを文化財審議会の場なりでお教えいただけますと、他の分野についてもここに行ったら情報が得られるという、知識があるだけでも大変参考になりますのでどうぞよろしく願いいたします。

【鑑委員長】

ありがとうございます。他にご質問はございますか。他にご意見等ないようでしたら、続きまして、報告 (2) 「令和元年度文化財保護・調査・普及事業計画について」、事務局から説明をお願いします。

【埋蔵文化財保護係長】

資料は、報告 (2) 「令和元年度文化財保護・調査・普及事業計画について」というものになります。まず、資料 1 ページ目の 1. 文化財保護・調査になります。①の取掛西貝塚保存事業につきましては、報告 (3) 「取掛西貝塚保存事業について」で詳しくご説明させていただきます。

【埋蔵文化財調査事務所調査班長】

引き続きまして、②の開発等に伴う発掘調査・整理作業予定についてご説明させていただきます。現在、本調査、確認調査を行っている場所がございます。資料 1 ページの一覧表をご覧くださいますと、東中山台遺跡群 (72)、夏見大塚遺跡 (34) については、埋蔵文化財調査事務所が直営で調査を行っております。いずれも令和元年 6 月中旬に調査を終了する予定でございます。

その下の中野木台遺跡 (24) につきましては、調査を委託する予定で、令和元年 6 月下旬から調査を行う予定でございます。

その他、本調査につきましては、3 件を予定しております。また、今年度も確認調査は 32 件を予定し

ており、こちらは直営で調査を行い、市内遺跡を4件含んでおります。

続いて、③の発掘調査報告書の刊行予定についてです。資料1 ページの下の方に発掘調査報告書刊行予定の一覧表を記載しております。国庫補助事業であります、令和元年度市内遺跡発掘調査報告書をはじめとしまして、整理作業から報告書刊行まで進めてまいります。

続いて資料2 ページに移らせていただきます。④の市費単独整理作業ということで、今年度は3件を予定しております。

こちらは、平成29・30年度より引き続きの整理作業となりますが、海老ヶ作貝塚(2)、取掛西貝塚(5)－Ⅱ、取掛西貝塚総括報告書の3件分の整理作業を埋蔵文化財調査事務所で行っておりまして、今年度、海老ヶ作貝塚(2)については、土器の実測の委託を予定しております。取掛西貝塚(5)－Ⅱにおいても、今年度、石器の実測を委託する予定でございまして、継続して整理作業を行ってまいります。

【歴史文化財係長】

資料2 ページの⑤の指定・未指定文化財調査予定についてです。今年度も市内の神楽などの民俗行事の調査を行ってまいります。

また、市内の民俗行事の調査として、今年の7月に船橋市湊町あたりで3年に一度の湊町八剣神社の例大祭が行われます。そちらの方も文化課の歴史文化財係で取材を行う予定です。

また、市内の古民家については、本市の文化財審議会委員であります金出ミチル委員にご協力いただきまして、調査を行っていただいておりますが、今年度も解体といったそのようなお話しがございましたら、またご協力いただきまして、調査をお願いしたいと思っております。

先ほど、金出ミチル委員よりお話がありましたが、平成30年度に西図書館のデジタルミュージアムで市内の民家調査報告書を6冊公開しているところなのですが、今年度も残りの11冊を公開していく予定でございます。公開しましたら、文化財審議会といった場をお借りしましてご報告させていただきたいと思っております。

⑥の下野牧二和野馬土手、こちらは、平成29年度に市の文化財に指定となりましたが、まだ指定に同意していただけていない部分がございますので、そちらについて、所有者の方に同意していただけるよう、引き続きご説明を行い、文化財審議会でご審議いただけるよう準備していきたいと思っております。

併せまして、以前より、年2回の草刈と通行に影響を及ぼしそうな樹木の伐採を行っておりまして、今年度も保護に必要な維持管理を続けてまいります。また、昨年度、近隣の小学校である二和小学校で出前授業を行わせていただきましたので、今年度も行いたいと考えています。

⑦の神楽伝承者交流会に移りまして、今年度、神楽伝承者交流会は3年目を迎えまして、今後、後継者育成ですとか、そういったことに役に立つように行っていきたいと思っております。

⑧の指定文化財補助事業につきましては、昨年度同様、市内の指定・登録文化財の管理伝承費や緊急修繕等に対し、補助を行ってまいります。

現在、申請中ではございますが、船橋大神宮の境内にあります県指定有形民俗文化財である灯明台の銅板部分が剥がれていること、また、灯室のガラスにヒビが入ってございましたので修繕を行ったところでございます。

もう1件ですが、現在、活動休止中の市指定無形民俗文化財である「神保ばやし」の採譜を地域の団体の協力を得て実施していきたいと考えております。

資料 2 ページの 2. 普及事業に移らせていただきます。まず、①の文化財・遺跡説明板の設置・改修予定についてご説明させていただきます。

今年度は、指定文化財の説明板の建替えを 3 基予定しております。遺跡説明板については、国庫補助事業として 6 基の設置を予定しております。建替えについては老朽化している説明板や所有者等からご要望があったところから優先的に行っていきたいと思っております。

【埋蔵文化財調査事務所調査班長】

資料 3 ページに移りたいと思います。②の今年度の遺跡見学会の開催予定についてです。いずれも取掛西貝塚でございますが、一覧表に記載しております通り、年度当初の段階でこれだけ多くのご要望をいただきました。今年度は、親子 de 発掘体験は予定には入れていないのですが、芝山東小学校の 6 年生を対象に出前授業や見学会を行ってまいります。

また、それ以外に埋蔵文化財調査事務所で開催しております発掘調査、本調査になりますが、こちらの方で開催が可能な時期に発掘体験もしくは見学会など行えるようであれば行っていきたいと思います。

【埋蔵文化財保護係長】

資料 3 ページ目の③-1、埋蔵文化財に関する講師派遣・講座予定についてご説明いたします。取掛西貝塚の取り組みがかなり浸透してきて、おかげさまでまちづくり出前講座といった講座の依頼が数多く来ております。現段階で決まっているものに関して一覧表に記載しております。まちづくり出前講座の他に、今年度も小中学校教員の初任者研修会での講演を依頼されております。

また、令和元年 6 月 15 日に千葉市生涯学習センターで行われます動物考古学会、貝塚等から出土しました動物の骨とか貝とか、そういったものを考古学的に考察する学会でございますが、こちらの方です。取掛西貝塚調査検討委員会で委員を務めていただいております樋泉岳二氏が中心となりまして、こちらの船橋市の職員も共同発表ということで、取掛西貝塚の現在の成果について発表を行う予定です。

さらに、令和元年 12 月 14 日に千葉県北西部地区文化財行政担当者協議会文化財発表会がございます。こちらは、千葉県北西部地区の 11 市合同で 2 年に一度開催しているものでして、今年度は船橋市で開催する予定でございます。その関連展示を令和元年 11 月から令和元年 12 月にかけて、飛ノ台史跡公園博物館で実施する予定でございます。

令和 2 年 3 月 14 日に取掛西貝塚の記念講演会といたしまして、令和元年度の調査成果の報告の他に、元文化庁の主任文化財調査官の禰宜田佳男氏、それから、取掛西貝塚調査検討委員会の委員で植物考古学がご専門の佐々木由香氏にご講演していただく予定でございます。

【歴史文化財係長】

資料 3 ページの③-2 の歴史文化財に関する講師派遣・講座予定についてご説明いたします。現在のところは 1 件、小室公民館での講演になります。今後、歴史文化財を市民の方々へご報告できる場を設けていただければと思っております。

【埋蔵文化財調査事務所調査班長】

資料 4 ページに移らせていただきます。④の研修生・職場体験受け入れ予定についてです。現在のと

ころ、今年度も御滝中学校から 4 人ほど生徒の職場体験の依頼が来ております。今後、職場体験等の依頼が来るかもしれませんが、可能な限り受け入れていきたいと思っております。

【歴史文化財係長】

⑤の吉澤野球博物館資料展示室ということで、平成 27 年度に船橋市本中山にあります「吉澤野球博物館」から譲り受けた資料を、平成 29 年度に船橋市総合体育館（船橋アリーナ）内に「吉澤野球博物館資料展示室」を設置し、展示しています。そちらの方の展示替えですとか、未整理資料がございますので、そちらの資料整理を進めているところでございます。

企画展・展示替えにつきましては、資料 4 ページに記載させていただきました。常設展の入れ替えとしまして、イチロー（鈴木一朗）に係る資料がございますので、令和元年 7 月 1 日から展示を行う予定です。

また、令和元年 8 月からは企画展としまして、クラブやユニフォーム等の野球道具特集を行い、展示を行う予定です。

【鑑委員長】

ありがとうございました。委員の先生方、ただ今の報告に対して、ご質問などはございますか。

【菅根委員】

資料 2 ページの⑧の指定文化財補助事業で市指定無形民俗文化財である「神保ばやし」の採譜についてお話がありましたが、これけっこう大変でございまして、そういった音楽家の充当というのを予定されていますか。

【歴史文化財係長】

実際、採譜にご協力していただける方が独特に採譜を行っているので、全て汎用的に音符として落とせるわけではなくて、ドンドコドンといった採譜の際は、丸を付けるものになります。「神保ばやし」の最後の演者で太鼓の方がいらっやいまして、やっぱり笛に合わせて太鼓を演奏されていたので、太鼓の採譜もなかなか時間がかかると思われます。採譜にご協力していただける方も、この付近ですと、千葉の武石の三代王神社の神楽のお囃子の採譜も行われている方ですので、実績もある方だと思われます。

【菅根委員】

私も何回か採譜を経験したのですが、けっこう違うものが出来てしまったことがあります。

【歴史文化財係長】

最初に「神保ばやし」と採譜を行われている方との顔合わせの際に、実際に太鼓と笛を合わせてみたんですが、なかなか、合わせるのに時間がかかってしまっているようでした。太鼓を演奏している神保ばやしの方もすっかり体は動いていて、だんだん思い出して叩けるようにはなるのですが、それを採譜するというのは難しいとのことでした。今後、改めて採譜の方法を検討していきたいと思っております。

【菅根委員】

ありがとうございました。

【鑑委員長】

ありがとうございます。他にご質問はございますか。いかがでしょうか。

ご意見等ないようでしたら、報告(3)「取掛西貝塚保存事業について」、事務局から説明をお願いします。

【埋蔵文化財保護係長】

報告(3)「取掛西貝塚保存事業について」ご説明いたします。「令和元年度取掛西貝塚保存事業計画について」という資料が2枚ございますので、そちらをご覧ください。

取掛西貝塚は、東京湾東岸部では最古の貝塚であり、かつ日本列島において人類が定住し始めた縄文時代初期の集落跡として、全国的に見ても希少かつ重要な遺跡であると注目されております。船橋市としては、平成28年度から取り組みを始めまして、国史跡指定を目指して調査を進めております。

平成29年度から令和元年度の3カ年で遺跡についての学術調査を行いまして、令和2年度に総括報告書を刊行、その後、国へ指定に向けた意見具申を行いまして、令和3年度に国指定の告示というようなスケジュールとなっております。

令和元年度は、遺跡の確認調査を行う3カ年計画の最終年度になります。今年度は補足調査として、未調査部分の確認調査と保存状態の良い縄文時代早期・前期の竪穴住居跡の詳細な調査を予定しておりまして、農閑期である令和元年6月から令和元年9月まで調査を行う予定でございます。

調査の対象範囲になりますけれども、資料3ページをご覧くださいと、取掛西貝塚の地図がございます。こちらの地図の斜線で示している範囲が、今年度、調査対象として計画している場所でございます。主に遺跡の中央部分を中心に調査を行います。

それでは資料1ページに戻りまして、ご説明させていただきます。平成30年度の調査成果については、平成30年度第3回文化財審議会でご報告させていただきましたが、調査範囲は平成29年度に遺跡の東側半分、平成30年度に西側半分の調査いたしました。遺跡は約76,000㎡ありますけれども、その遺跡全体に約1万年前の縄文時代早期前半の集落が広がっておりまして、関東地方最大級の規模であることが判明してきております。

また、約1万年前の縄文海進の始まりの頃と最盛期の約6千年前の頃の集落跡があることが分かり、環境変化に対する縄文人の適応を直接比較できる、希少な遺跡であることが分かってまいりました。

これを受けまして、今年度の調査では後の整理作業のために、より詳しく縄文時代早期・前期の竪穴住居跡を各1軒ずつ対象として、住居を復元できるよう住居跡の構造を把握する作業を進めていきたいと思っております。

現地の確認調査以外にも貝層等からの試料採取を行い、年代測定や動植物遺存分析等の科学分析を委託する予定でございます。

また、調査中につきましましては、今年度も大学生に発掘調査に参加してもらおう予定でございます。

続いて、自然環境調査、昨年度もボーリング調査を行いましたけれども、そちらについてもボーリングコアの自然科学分析を進めるとともに、追加調査を行う地点についても、補足ということで調査を計

画しております。

こういった調査の内容につきましては、平成30年度から取掛西貝塚調査検討委員会を発足させまして、本文化財審議会委員の阿部芳郎氏を委員長としまして、縄文時代が専門であります、堀越正行氏、谷口康浩氏、さらに動物考古学が専門の樋泉岳二氏、植物考古学が専門の佐々木由香氏の5人の先生方にご指導、ご助言をいただいております。取掛西貝塚調査検討委員会の開催時にはオブザーバーとして文化庁の担当調査官や千葉県文化財課の担当者にもご指導、ご助言をいただいております。

続きまして、普及事業でございますが、昨年度は初級編の取掛西貝塚のパンフレットを作成しましたがけれども、今年度も国庫補助事業としまして、中級編のパンフレットを作成する予定でございます。今回、作成するパンフレットは詳しく知りたい方向けになりますので、ページも8ページに増量しまして、作成する予定でございます。先ほどもお話ししましたがけれども、取掛西貝塚の概報を考古学協会配布しております。

次の講座・講演会・遺跡見学会等につきましては先ほどお話ししましたとおりです。

これらの他に、広報ふなばしや記者発表、フェイスブックにおきまして広報発信を積極的に行っていく予定でございます。

【鑑委員長】

ありがとうございました。委員の先生方、ただ今の報告に対して、ご質問などはございますか。

【金出委員】

内容に関わることではないのですが、元号と西暦の使い分けがなかなか難しく、例えば、取掛西貝塚のパンフレット中、参考文献は全て西暦に直しているんですけど、それとこのなかで参照しているものとの前後関係が、平成と令和を跨いでいると分かりにくくなってしまっています。学会発表が何年前であったのか、その現場の時期との前後関係が計算しづらくなっているんですね。なので、「平成何年事業」というのは市役所の手続き上、やむを得ない表記なのかもしれませんが、一般向けのものでは、分かりやすく表記するように工夫していただきますと読みやすくなると思います。

【鑑委員長】

他にご質問はございますか。それと、事務局でここは話しておきたいということがあればお願いします。

【埋蔵文化財調査事務所長】

先ほど、今年度の取掛西貝塚の調査についてお話しさせていただきましたが、竪穴住居跡の詳細な調査を行います。今までは確認調査でしたので竪穴住居跡の形を出したりしていたのですが、実際に発掘調査をしてですね、本格的に調査をしていきます。今までの2年分の調査と若干異なる部分もあります。ですので、委員の先生方にご覧になっていただきまして、調査の状況ですとか、ご助言いただければと思いますのでよろしく願いいたします。

【文化課長補佐】

夏は、文化財審議会として取掛西貝塚の見学を予定しておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

【鑑委員長】

他にご質問はございますか。

【青木委員】

1つよろしいでしょうか。令和元年度の取掛西貝塚保存事業計画について、という資料の2ページ目の事業推進のイメージというところですが、これは史跡指定される前にすでに保存・整備・活用計画を策定されるわけですか。

【文化課長補佐】

それにつきましては、まずは当該地に開発が迫っておりますので、遺跡の保存を目的として、史跡指定を目指すというのが、正確にいうと第1段階ですが、文化庁から遺跡を保存ということは、活用をイメージしながら、調査計画を立てるようということをご助言いただいております。そういう意味で、取掛西貝塚調査検討委員会では、活用をイメージした調査計画を立てているところではございますが、実務としてはまず遺跡を保存し、史跡指定を受けた後に整備・活用という流れになると思います。

【青木委員】

最近、史跡指定の際に史跡整備の事に関しては、保存・整備のことについてしっかりと明確にして、それを要件の1つに入るケースがありますよね。だから、そのために第2段階で保存・整備・活用計画を策定するという理解で良いですか。本格的には第3段階に入って、令和3・4年度に史跡整備について補助金を活用して、活用計画を策定するということですね。

【文化課長補佐】

そういうイメージです。今後は取掛西貝塚保存・整備委員会で検討していくということになります。

【鑑委員長】

他にご質問はございますか。

【岡崎委員】

取掛西貝塚もさることながら、船橋市の場合は夏見台遺跡、夏見大塚遺跡ですか。そちらをどうやってまとめていくのかなということが全然見えていないのでね、私も最初に調査に関わった担当者として、責任を感じております。夏見台遺跡、それから夏見大塚遺跡も過去に多く調査をしていますし、印内台遺跡群とかそちらの地区もどうやってまとめていくのかなということを、これだけではなくて私自身も考えてやっているところなので、事務局でも余裕がありましたら、考えてやっていただければと思いま

す。以上です。

【鑑委員長】

事務局では今の質問に対してどうですか。

【文化課長補佐】

貴重なご意見をありがとうございます。開発の事前調査として夏見台遺跡、夏見大塚遺跡も70ヵ所以上調査を行っているという状況でございますけれども、それらをまとめるということは、先生がおっしゃるように印内台遺跡群、東中山台遺跡群を含めて大変大切なことでございます。そういった中でまずは、発掘調査の報告書をきちんと刊行することを埋蔵文化財調査事務所で行っております。昭和の時代のもも文化課・埋蔵文化財調査事務所です。計画的に刊行してございまして、かなりの蓄積ができてきております。

そのような中で、一昨年度に郷土資料館がリニューアルしまして、今、先生がおっしゃっていただいたような成果、今まで「点」的に蓄積してきた成果を「面」として総合的にまとめた展示を実施しました。ただし、現在進行形で調査の成果を蓄積しておりますので、先生がおっしゃったようなことに留意しながら、今後は博物館を含めて総合的な研究、船橋の歴史の復元を進めてまいりたいと考えております。

【埋蔵文化財調査事務所長】

市内の遺跡で調査の件数がだいぶ多くなっております。先生がおっしゃっていただいたようにですね、調査が始まってから年数が経過しており、資料の蓄積もございますので、今後は、そのまとめ、研究ということも力をいれていかなくてはいけないのですが、文化課や埋蔵文化財調査事務所だけではできないことですので、郷土資料館、飛ノ台史跡公園博物館と協力して考えていかなくてはいけないと思っております。調査と並行して、こういった研究ということも進めていかなくてはいけないということも重々承知しておりますので、ご理解いただければと思います。

【鑑委員長】

ありがとうございます。岡崎委員どうぞ。

【岡崎委員】

調査して、報告書を刊行するのは分かりますけれども、今後、マクロにどうやって捉えるのかというイメージ付けをしなくてはいけない段階であると思っております。その点はどうでしょうか。

【文化課長補佐】

印内台遺跡群あるいは東中山台遺跡群などは過去40年間の調査成果をまとめまして論考なども出しておりますが、今後それらをまとめ、市民の方へ成果を還元し、伝えていくということを文化課、埋蔵文化財調査事務所、博物館共にしっかり計画を立てて行っていきたいと思っております。

【鑑委員長】

ありがとうございました。他にご質問はございますか。菅根委員どうぞ。

【菅根委員】

取掛西貝塚の概報の記名方法についてです。その文章のパートごとに記名を出してあげると学芸員や調査員の方々の1つの成果になりますので、検討していただくのも必要かもしれません。現在は、そのパートごとに記名することについて、だいぶ指導がありまして、中身の部分部分で記名することについてお考えいただければと思います。以上です。

【鑑委員長】

ありがとうございました。先ほどご説明していただきました取掛西貝塚の補足の確認調査が令和元年6月から令和元年9月まで行われる予定ですので、委員の皆さまにはその視察についてもご参加していただければと思います。

他にご意見等ないようでしたら、続きまして、報告(4)「指定文化財候補の選定について」、事務局から説明をお願いします。

【歴史文化財係長】

「指定文化財候補の選定について」、ということでその様式をお配りさせていただいているのですが、今まで、指定文化財については指定文化財管理台帳というのがございまして、ほぼその様式に近いものになっているのですが、文化財審議会でお諮りする際や文化財を指定してほしいという要望があった際に体系的な台帳を作成し、整備していきたいと思っております。できましたら、この様式に関して、委員の皆さまのご意見をいただければと思い、この場をお借りしましてお配りさせていただきました。

【鑑委員長】

ありがとうございました。委員の先生方、こちらをご覧になってこうしたほうが良いよというご意見はございますでしょうか。金出委員、お願いします。

【金出委員】

1つよろしいでしょうか、年代が分かるようにすることも重要なので、記入項目に含めるとよいと思います。

【鑑委員長】

ありがとうございました。他にご質問はございますか。ないようでしたら、終了させていただきます。

【各委員】

異議なし。

【鑑委員長】

以上をもちまして、令和元年度第1回船橋市文化財審議会を閉会いたします。

【各委員】

ありがとうございました。